

大学生対象伝統芸能教材の開発

——ワークショップ型講義教材とインターネットでの音源配信を中心に——

飯塚 恵理人*

Development of Teaching Materials on Japanese Traditional Performing Arts to
University Students
—Focusing on Materials for Workshop-Style Lectures and Internet Delivery
of Their Sound Sources—

Erito IIZUKA

一 はじめに

名古屋は「芸どころ」と呼ばれ、江戸時代より稽古ごとが盛んな土地柄である。その範囲は芸事全般に及び、平曲・能・狂言・日本舞踊・長唄・三曲・箏曲・尺八など、多岐に及んでいる。しかしながら、小学校・中学校の音楽の授業が西洋音楽を基準として行われていることもあり、とくに子供達への伝統芸能の浸透度は低い。子供や若者に対する伝統芸能への興味付けが、今後の伝統芸能の維持のための大切な仕事となる。

筆者が担当している文化情報学部の講義において、高校までにどのような伝統芸能に触れてきたかを尋ねると、歌舞伎・能・狂言・箏曲・日本舞踊などを学校で鑑賞したという学生が若干いるだけで、それらを稽古した体験がある学生はごくまれである。ただし、稽古の経験がある学生は総じて日本の伝統芸能に関心を持っており、卒業後も機会があれば稽古したいと述べている。初歩でも「稽古」をしたということが、「習う」ことへの心理的なハードルを低くしていると考えられる。

現在の大学生を伝統芸能の初歩に触れさせる上で、ワークショップと言うのは有効な手段であると考えられる。ここでいうワークショップは、講義の1時間もしくは2時間分を用いて、その芸能の一番初歩の教材を、プロの指導のもと、学生が稽古するというものである。飯塚の「日本伝統文化論」・「文芸A」では、能・狂言・舞踊・尺八を扱っているが、従来はビデオ鑑賞によるもので、学生たちが実際に体験することはなかった。観る側が演じる、もしくは演奏する経験をすることによって、その芸をより身近に感じ、また「プロ」の技のすごさを知ることができると考えた。また、そのときに、端唄・尺八などの芸を録音し、それをMP3ファイルとして編集し、インターネットで配信することによ

* 文化情報学部 文化情報学科

て、名古屋の芸を広く知らせることもできると考えた。

以上の観点から、平成18年度前期の文化情報学部「日本の伝統と文化」の講義で西川流師範の西川古都師による「日本舞踊ワークショップ」を、「文芸A」の講義で岩田律園師（西園流・明暗対山流）・岩田恭彦氏（現代邦楽）による「尺八 いま・むかし ワークショップ」を行った。以下、そのワークショップの準備と実際、その成果と課題について述べてゆきたい。

二 「日本舞踊ワークショップ」

名古屋は、明治期の初代西川鯉三郎師の時代より西川流の舞踊が盛んである。しかしながら、学生は日本舞踊も西川流もほとんど知らない。日本文化の講義ではまず地元名古屋の芸能を教えたいので、西川流のワークショップを行いたいと考えた。西川古都師は、先代鯉三郎師の薫陶を受け、現在、若竹会を主宰されており、その芸は高く評価されている。そこで、西川古都師にお願いし、日本舞踊「潮来出島」の稽古を中心としたワークショップを行うことにした。平成18年5月26日に第一回を、6月16日に第二回を行った。事前学習として前の回の講義で「潮来出島」のビデオを見せた。

第一回目の進行は下記の通りである。

〔一〕名古屋西川流の歴史

〔二〕扇の扱い方

〔三〕お辞儀の仕方

〔四〕「潮来出島」を全員で踊る

当日の参加者が36人であったため、9人ずつの4グループに分けて踊った。

また、古都師に教えていただいた「潮来出島」の本文は以下の通りである。

〈潮来出島〉

いたこ出島の 真こもの中に あやめ咲くとは しおらしい サアサよいやサア よいやさ

富士の柴船 早瀬を渡る わたしや君ゆえ のぼり船 サアサよいやさ よいやさ

参考：

花はいろいろ 五色に咲けど めしに見かえる花はない サアサ よいやさ

花を一もと わすれてきたが あとで咲くやらひらくやら サアサよいやサアー よいやさ しなもよく花にうかれて ひとおどり

日本舞踊を実際に踊るのはみな初めてだったが、古都師に合わせて、みな一生懸命踊っていた。この講義の様子は文化情報学部スタジオ所属のNHKテクニカルサービスの職員によって講義の記録用に撮影された。当日中日新聞の取材があり、翌5月27日の中日新聞名古屋市内版に記事が掲載された。

第二回目のワークショップでは、前回は他の舞台での「潮来出島」の録音テープを用いて踊ったのに対して、古都師に1時間早めに来ていただき、西川古鏝氏とともに三味線と唄を唄っていただき、これをその場で録音したものを用いた。この回は「潮来出島を全員で踊る」ことに主眼をおき、4グループに分けて行った。また、スタジオにNHKテクニカルサービスのカメラマン・音声担当の方が4人きてくださったので、学生にスタジオカ

メラの扱い方を教えていただき、学生が自ら稽古の様子を撮影した。踊りも二回目になり、かなり覚えて上手に踊る子も出てきた。二回のワークショップによって、「踊りの型」と文章の「表現」の関係を実際に覚えることができ、講義の成果の面から意味があった。また学生の講義の評判もよかった。この講義には読売新聞社会部の取材があり、6月17日の読売新聞名古屋市内版に記事が掲載された。

三 「尺八 いま・むかし ワークショップ」

尺八は、東京では琴古流、大阪では都山流が盛んである。しかしながら、名古屋には固有の流儀として西園流・明暗対山流が現在まで傳承されている。岩田律園師は東海三曲演奏家の会の代表で、西園流の流れを汲み、西園流と関係の深い明暗対山流の本曲（独奏曲）の両方を演奏される貴重な傳承者である。尺八は三味線・箏と合わせた三曲（合奏）や現代邦楽の世界でも盛んに用いられ、律園師ご自身も三曲の指導を熱心になさっている。ご子息であられる岩田恭彦氏・昭彦氏も現代尺八の演奏家で、平成17年秋には、「岩田律園ファミリーコンサート」で名古屋市芸術祭の審査員特別賞を受賞されている。

名古屋に伝わる貴重な芸能として、尺八についても学生に体験してほしいと考えた。そこで、文化情報学部1年生の科目である「文芸A」でワークショップを行うこととした。1コマという限られた時間内で、下記の内容を学習することとした。現代尺八の演奏と講義は、岩田恭彦氏にお願いした。

- 〔一〕名古屋における三曲と尺八の歴史の講義
- 〔二〕尺八の演奏
- 〔三〕現代における尺八曲
- 〔四〕尺八を学生が全員で演奏する（吹く練習をする）

当日は予定通りに行われ、〔二〕の「尺八の演奏」では岩田律園師に「虚鈴」と「霧海簾」の演奏をしていただいた。また、現代尺八では、岩田恭彦氏に汽車の汽笛やお化けの出る時の効果音などを吹いていただいた。さらに律園師に「一二三調鉢返」、恭彦師に自作の曲「夢一つ」と、生徒用の練習曲として「チューリップ」「ハトポッポ」「草競馬」「証誠寺の狸ばやし」「ソーラン節」を演奏していただき録音した。また最後には東京ディズニーランドのテーマ曲なども吹いていただき、盛り上がった。なお、このワークショップについても当日中日新聞の取材があり、翌6月27日の中日新聞名古屋市内版に記事が掲載された。

四 インターネットを用いた「尺八」音源の配信

尺八では前述のように琴古流と都山流が有名で、西園流は地元の名古屋でもあまり知られていない。これは、尺八に限らず伝統芸能のテレビ番組が東京中心で行われており、「名古屋」の伝統芸能が放送される機会が少ないことが影響していると思われる。しかしながら、インターネットを用いれば、名古屋の伝統芸能を全国に向けて情報発信することが可能である。

ワークショップを行ったので、岩田律園師・恭彦氏・昭彦氏の尺八の音を録音し、ホー

飯塚 恵理人

ムページ上で配信することができる。現在の筆者研究室のサーバーの能力では、ホームページから動画を配信することは難しいが、録音した曲をMP3形式にし、ホームページから配信することは充分可能である。そこで岩田律園師に、西園流の本曲11曲と別伝曲の「阿字観」を文化情報学部スタジオで演奏していただき、録音した。そしてそれを作曲家の渡辺康氏に依頼してMP3ファイルとし、飯塚研究室ホームページ「恵理人の小屋」の「尺八 いま・むかし」(<http://zeami.ci.sugiyama-u.ac.jp/%7Eizuka/erito1/iwata1.html>)のページから配信するようにした。スタジオでの録音を横で聴きながら、ぜひ学生だけでなく他の多くの方にも聴いてもらいたいと思った。

表1 ホームページ「尺八 いま・むかし」より配信している楽曲 (2006年7月27日現在)

普化尺八 岩田律園

番号	曲名	読仮名	尺八長	演奏時間	備考
1	本手調子	ほんてちょうし	1.8尺	2:24	普化尺八の入門曲。
2	虚鈴	きょれい	1.8尺	6:05	普化尺八の発祥の曲。
3	虚空	こくう	1.8尺	8:06	普化尺八開宗の曲。
4	霧海篋	むかいじ	2.0尺	7:46	普化尺八開宗の曲。虚鈴・虚空・霧海篋と合わせて「三虚鈴」と呼ばれる。
5	滝落	たきおち	1.8尺	7:25	滝の落ちる様を表現。
6	志図	しず	1.8尺	4:53	祭礼儀式の導入曲。
7	三谷	さんや	2.0尺	6:28	深山幽谷の曲か。
8	転菅搔	ころすががき	1.8尺	5:40	門付曲。
9	恋慕流	れんぼながし	1.8尺	6:58	門付曲。名古屋では「鈴慕」とも言う。
10	秋田菅搔	あきたすががき	1.8尺	6:08	五穀豊穰を祈願する曲。
11	鶴の巢籠り	つるのすごもり	1.8尺	9:28	親子の愛情をうつす。
12	阿字観	あじかん	2.0尺	5:07	観世音菩薩の法力を称える。
13	九州鈴慕	きゅうしゅうれいぼ	2.0尺	3:52	
14	一二三調 鉢返	ひふみちょう はちがえし	1.8尺	3:57	一二三調は本曲で最初に練習する曲、鉢返はお布施を頂いた時演奏する曲。
15	よしや	よしや	1.8尺	7:12	

現代尺八 岩田恭彦・昭彦


番号	曲名	演奏時間	演奏者	作曲者	備考
1	夢一つ	6:57	岩田恭彦	岩田恭彦	
2	古城の譜 第一楽章	6:47	岩田恭彦 岩田昭彦	岩田恭彦	尺八二重奏
3	古城の譜 第二楽章	6:10	岩田恭彦 岩田昭彦	岩田恭彦	尺八二重奏
4	チューリップ	0:48	岩田恭彦		
5	ハトポッポ	0:24	岩田恭彦		
6	草競馬	0:36	岩田恭彦		
7	証誠寺の狸ばやし	0:32	岩田恭彦		
8	ソーラン節	1:25	岩田恭彦 岩田昭彦		尺八二重奏

五 まとめ

大学が外に向かって情報発信すべき最たるものは、講義の内容であろう。私も「梶山でこのような講義をしています」という内容を配信したいと考えた。私の研究の「個性」は何より「名古屋」の芸能を扱っているということであり、それゆえ、ワークショップでは「名古屋」の芸能の伝承者に来ていただき、「模範」となるものを録音・録画した。録音はMP3方式で配信し、また映像は今後ストリーミングで配信できるよう準備を進めている。

現在の伝統芸能の観客は、能・狂言・歌舞伎・日本舞踊・長唄などのジャンルを問わず、「稽古している師匠の模範演技を見に行く」という要素が薄くなり、その人に習っていない観客が催しを支えつつある。しかしながら、伝統芸能にはどれにも表現の「約束事」があり、それを知っていることが鑑賞する上での理解を助ける。このようなことから、ワークショップの実施と、初心者向け教材のインターネットでの配信は今後大きな意味を持つであろう。今年度は日本舞踊と尺八で行った。この二つは来年も行いたい。今後、長唄・箏曲等のワークショップも企画していきたい。それらの企画によって、学生に名古屋に残る伝統芸能の魅力伝え、さらにインターネットを通じて、広く一般の方に名古屋の芸能の魅力を伝えて、伝統芸能が次世代に伝わる一助となれば幸いである。

参 考



山女学園大で二十六日、千種区集が丘元町の梶山で、講義は同学部の一日本

日舞西川流の師範招き講義
千種の梶山女学園大

名古屋の伝統芸能を学ぶ講義があり、文化情報学部の学生二十四人が名古屋西川流の日本舞踊を学んだ。写真。

「ほれていゝな踊りの型を学んだ。学生は慣れないゆるやかな動きにとまどいながら、扇子の広げ方や足の運び方を実践。」

一年生の女子学生(左)は「日本舞踊は初めてだけれど扇子を開けるのは難しい」と苦戦した様子。担当の飯塚恵理人助教授(右)は「名古屋の伝統芸能を若い人にも知ってもらいたい」と話していた。(広瀬和夫)

西川流舞踊の端唄「潮来出島」を教材に、西川さんから「恥ずかしい」

5月27日 中日新聞 朝刊 名古屋市内版 26面

梶山女学園大生40人 講義で「西川流」体験

地元の伝統芸能に触れ、川古都さんを講師に招いた理解を深めようと、梶山女 講義「西川古部 日本舞踊 学園大学」(千種区)で16日、「ワークショップ」があり、日本舞踊の西川流師範(西)同大生約40人が三味線に合わせて舞を体験した。

講義は、文化情報学部の講座「日本の伝統と文化」の一環で行われ、能や狂言といった伝統芸能を学ぶ内容。普段は天才の講義だが、日本舞踊の表現は、実際に舞ったほうが分かりやすいと同

学部生約40人が先月、西川さんから「恥ずかしい」といった型の表現を教わったり、端唄「潮来出島」を踊ったりした。2回目となる16日は、西川さんの三味線に合わせて踊った。

同学部1年遠坂知里さん(18)は「社交ダンスやラダンスと比べるとゆっくりしていて表現が分かりやすかった」と話した。西川さんは「日本古来の伝統の一端に少しでも触れてもらえたらと思う」と、学生たちの意欲に期待していた。



日本舞踊を体験する梶山女学園大の学生たち

6月17日 読売新聞 朝刊 名古屋市内版 25面

初の「尺八」演奏 学生ら四苦八苦

千種の梶山女学園大

尺八の歴史や方について、思ひに合った背景を講義「尺八」いま説明「虚無貝八」から代から伝わる曲を吹いて現代尺八(二)が、十六日、基彦さんは披露音が多量たり、高音低音を多用したり、高音低音を多用したりする現代学大であった。

同大文化情報学部の飯塚恵理人(えり)と、助教授(二)が「きり」を古屋に集める伝説を学んでもらうと、名古屋南側対山流の尺八演奏家、岩田園(二)中村区上野(二)恭彦さん(二)親子を講師に招いた。一年生から三年生約百人が出席。

律園さんは明治時代の廃寺の影響で、尺八が虚無僧

尺八の技法を実演を交えながら分かりやすく紹介。「自由や感覚を大事にするのが現代尺八」にシヤス風を演奏し、学生を驚かせた。

基彦さんが青竹で作った特製の尺八を使って、学生たちは初めての演奏に挑戦。加藤伊出加さん(二)一宮市は「簡単に吹けるか」と思っていたが、全然音が出ない。苦戦していた(山口碧)

歴史や魅力紹介

熱心に尺八の吹き方を教える岩田園さんと千種区星が丘元町の梶山女学園大



6月27日 中日新聞 朝刊 名古屋市内版 19面

補記：ワークショップにご協力いただきました、西川古都師、岩田律園師、岩田恭彦氏および西川古鎮氏に心より感謝致します。また、音声ファイルを制作いただきました本学非常勤講師の渡辺康先生と貴重なご教示を頂きました本学文化情報学部の大木圭之介先生に心より感謝いたします。本研究は、平成18年度科学研究費助成基盤研究(C)、平成18年度日本私立学校振興・共済事業団学術研究振興資金、梶山女学園大学学園研究費助成(A)、文化情報学部学部研究費助成(C)による成果の一部となります。